

多職種学生合同チーム医療教育プログラム「ケア・コロキウム」の教育効果—第2報—
Effects of Interprofessional Education: experiences from the program named "Care colloquium" (second report)

【目的】筑波大学では平成18年度より医学類・看護学類・医療科学類合同のチーム医療教育プログラム「ケア・コロキウム」を導入した。2年目にあたる平成19年度は、医療関係各職種の理解度、チーム医療に関する認識などの定量的なアンケート調査に加えて、学生の学んだことを明らかにするために、自由記載形式のアンケート調査を併用し、教育効果の評価を試みた。

【方法】ケア・コロキウムは3学類学生で構成された7～8人の小グループ討論テュートリアルである。1週間のスケジュールで、学生は実際のケースをもとに作成された8シナリオ（要介護高齢者の地域ケア、ターミナル期のケア等）のうち1つを担当し、ケースの問題点、解決策等について討論し、2回のコアタイムを経て、討論した内容について全体発表を行った。教育効果の評価としてケア・コロキウムの前後に医療関係各職種の理解度、チーム医療に関する認識などの定量的評価を行うとともに、コアタイム終了時及びグループ学習終了時に自由記載形式のアンケート調査を実施し、学んだこと、そのときの感情、グループの状況等を記入してもらった。最終日にケア・コロキウムを通して得たもの、今後の目標を自由に記載してもらった。自由記載項目について、記載項目を抽出し、カテゴリー化を行った。

【結果】定量的な評価では、ケア・コロキウム前後で全ての職種の理解度のスコアが上昇し、チーム医療の認識に関するスコアも上昇した。自由記載項目では、ケア・コロキウムで学んだこととして、他職種の理解、連携の重要性、コミュニケーションの重要性、専門職としての専門性の自覚、全人的ケアの重要性等が挙げられた。

【結論】ケア・コロキウムを通して、多職種連携・チーム医療に関しての深い学びが得られていた。同時に、ケア・コロキウムは自らの職種に対する理解やプロフェッショナルリズムの教育にも有用であることが示唆された。